

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	33
基本施策	11	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実		

1 施策の概要

基本方針	児童生徒一人ひとりに配慮しながら個性を活かす教育を推進し、基礎・基本を定着させ、自ら学ぶ意欲を引き出す授業を充実させるとともに、特別な支援を必要とする児童生徒に対し、きめ細かな教育・支援を推進します。また、自然体験や職業体験、国際理解教育、情報教育、食育など、地域に根ざした特色のある学習を推進します。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	各小中学校で特色を生かした教育活動を実践しているほか、特別支援教育支援員及び外国語指導助手の増員を図り、児童生徒へのきめ細かい指導に努めている。また、新学習指導要領の実施に向けた準備が進んでいる。	新学習指導要領が令和2年度に小学校、令和3年度に中学校で全面実施となり、各学校において「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善が進められている。また、GIGAスクール構想によるタブレットPCを整備しICTの活用を推進するため、学校ICT支援員を配置した。その他、ふるさと学習支援員を配置し複式学級がある小規模校への学習支援を充実させている。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	新学習指導要領の実施により、児童生徒の主体的、協働的深い学びが求められるとともに、プログラミング教育や新たにGIGAスクール構想による児童生徒1人1台パソコン整備など学校におけるICTの更なる活用が求められている。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、感染症対策をはじめ学習活動、学校行事などの縮小、延期などの制限を余儀なくされている。また、GIGAスクール構想のタブレットPCの運用にあたっては、通信環境に不具合が生じるなど対策が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した小学6年生の割合					
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値						85.0%
指標2	実績値	71.9%（全道68.9%）	80.6%（84%）	82.8%（82%）	—	80.0%	
	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した中学3年生の割合					
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指標3	目標値						70.0%
	実績値	35.1%（全道45.3%）	62%（71.3%）	45.7%（70.6%）	—	73.6%	
	指標名	全国学力・学習状況調査					
	定義等	「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」小学6年生の割合					
指標4	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値						65.0%
	実績値	53.2%（全道54.6%）	44.5%（57.1%）	83.3%（57.6%）	—	36.0%	
	指標名	全国学力・学習状況調査					
指標5	定義等	「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」中学3年生の割合					
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値						65.0%
	実績値	56.7%（全道63.0%）	41.4%（64.7%）	49.9%（63.2%）	—	20.6%	
指標6	指標名	特別支援教育支援員					
	定義等	特別支援教育支援員の人数					
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	目標値						4人
指標7	実績値	3人	4人	4人	5人	5人	
	指標名	外国語指導助手（ALT）					
	定義等	外国語指導助手（ALT）の人数					
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指標8	目標値						2人
	実績値	1人	1人	2人	2人	2人	

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	言語治療児童援助事業	教育総務係	239	A	継続／現状維持	A
②	語学指導を行う外国青年招致事業	教育総務係	9,977	A	継続／内容の見直し・変更	A
③	小中学校教師用指導書購入事業	教育総務係	367	A	継続／現状維持	A
④	雄武町特別支援教育推進事業	教育総務係	24,711	A	継続／現状維持	A
⑤	ふるさと教員配置事業	教育総務係	2,916	A	継続／現状維持	A
⑥	要保護・準要保護児童生徒援助事業	教育総務係	3,483	A	継続／現状維持	A
⑦	児童生徒授業用コンピューター等整備（更新）事業	教育総務係	1,320	A	継続／拡充	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	小中学校における教育内容の充実については、国の教育施策等の動向を見据えながら、義務教育を推進する上で必要不可欠な施策である。
② 有 効 性	A	少人数・習熟度別学習など、児童生徒の基礎・基本を定着させる授業と自ら学ぶ意欲を引き出す授業の充実のほか、ICT環境の整備により有効な施策の推進を図った。
③ 効 率 性	A	各関連事業の実施にあたっては、最小の経費で最大の効果が得られるよう、財源の配分及び関係事業執行の工夫により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公 平 性	A	義務教育の対象となる児童生徒の全員に受益が及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見 の 反 映	A	小中学校の教育内容の充実については、地域やPTAとの連携ほかコミュニティ・スクール協議会の設置により、町民意見の反映を図っている。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
学校教育の効果的な推進を図るため、町費職員の充実や関係事業を効果的に進めたことにより、各学校が児童生徒へのきめ細かい指導に努め、子供たちの学びの充実につながっていると判断する。また、新型コロナに対応した「学校の新しい生活様式」による感染対策により各種教育活動を工夫しながら進められている。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
小中学校の教育については、引き続き関係事業を推進し教育内容の一層の充実に向けていく必要があり、児童生徒の「生きる力」を育むため、主体的、対話的で深い学びにつながる施策の実施、保育所・小中学校・高等学校間の情報共有や連携を図ることが重要である。	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	34
基本施策	11	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実		

1 施策の概要

基本方針	授業改善の取り組みなどにより、教職員等の資質と指導力を向上させるとともに、教育施設・設備の計画的な整備・改修や、地域ぐるみの学校安全対策を推進します。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	教職員の働き方改革のための「アクションプラン」の取組や教育相談員の配置が計画的に図られている。また、教育施設の長寿命化計画の策定が完了した。	少子化の影響により児童生徒数が減少しており、令和3年度で豊丘小学校が廃校となった。教育施設については長寿命化計画に基づいた必要な整備改修が進められている。スクールバスの更新については、本年度で各車両の更新が完了した。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	長寿命化計画による教育施設の整備については、学校の将来的な視点からも検証しながら整備を進める必要がある。	教職員の働き方改革については、校務支援システムの導入や勤怠管理などにより業務改善、意識改革が進められているが、新学習指導要領による教育課題、授業時数の増や感染症対策などの新たな課題が発生している。学校施設については、雄武小学校、中学校などが位置する教育施設エリアの再編整備に向けた基本的な構想を策定することとしているが、時間を要している。

2 基本施策指標

指標1	指標名	教育相談員						
	定義等	教育相談員の人数						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							1人
	実績値	0人	1人	1人	1人	1人		
指標2	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	山村留学推進事業	教育総務係	0	C	継続／内容の見直し・変更	B
②	教育施設等管理委託業務	教育総務係	35,204	A	継続／現状維持	A
③	小中学校教育備品整備事業	教育総務係	5,577	A	継続／現状維持	A
④	生徒教育振興事業	教育総務係	1,817	A	継続／現状維持	A
⑤	学校図書整備事業	教育総務係	2,063	A	継続／現状維持	A
⑥	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	1,144	A	継続／現状維持	A
⑦	教職員教育振興事業	教育総務係	336	A	継続／現状維持	A
⑧	教育相談員配置事業	教育総務係	4,447	A	継続／現状維持	A
⑨	学校環境整備事業	教育総務係	33,124	A	継続／現状維持	A
⑩	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	教育総務係	361	A	継続／現状維持	A
⑪	スクールバス更新事業	教育総務係	23,640	A	終了	A
⑫	教職員住宅環境整備事業	教育総務係	9,797	B	継続／現状維持	A
⑬	へき地小学校巡回事務職員配置事業	教育総務係	1,967	A	継続／現状維持	A
⑭	小中学校感染症対策事業	教育総務係	559	A	継続／現状維持	A
⑮	豊丘小学校閉校事業	教育総務係	1,043	A	終了	A
⑯	雄武町文教地区基本構想策定事業	教育総務係	0	C	継続／内容の見直し・変更	C
⑰	雄武町教育情報セキュリティポリシー策定事業	教育総務係	2,200	A	終了	A
⑱	学校給食調理業務委託事業	学校給食係	18,711	A	継続／現状維持	A
⑲	学校給食食育推進事業	学校給食係	500	A	継続／現状維持	A
⑳	学校給食センター設備等更新事業	学校給食係	1,106	A	継続／現状維持	A

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	小中学校の教育環境の充実については、教職員の資質及び指導力向上のほか、教育の拠点施設である学校施設及び学校給食センターに係る施設環境の向上を図ることは重要な施策である。
② 有 効 性	A	小中学校等の施設環境及び教育備品等の整備を計画的に進め、安全安心な教育環境が整備され、有効な施策の推進を図った。
③ 効 率 性	A	小中学校等の整備に当たり、国の交付金をはじめ財源の確保やふるさと応援寄付金を有効に活用し、計画的かつ効率的に施策の推進を図った。
④ 公 平 性	A	義務教育の対象となるすべての児童・生徒に受益が及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育環境の充実については、学校評価やPTAとの連携、コミュニティ・スクール協議会及び学校給食センター運営委員会の開催等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
児童生徒が安心・安全で、より良い学びにつなげるためには、教育環境の充実、整備が最も重要であり、各施策を継続して推進することが必要である。	同左	同左

今後の方向性

継続／拡充	継続／拡充	継続／拡充
授業改善等の取組については、各種施策の推進と教職員の働き方改革の推進により効果的、効率的に進める。また、教育施設については、文教地区の整備を迅速に進める必要がある。	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	35
基本施策	11	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進		

1 施策の概要

基本方針	いじめや不登校などに迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、きめ細かな相談・指導を構築し、開かれた学校づくりを推進します。また、学校・家庭・地域が連携した「地域とともにある学校づくり」を推進します。		
現状と課題	【現状】（令和元年度末）		【現状】（令和3年度末）
	各学校の情報発信による「外から見える学校づくり」が実践されており、また、保護者、地域住民による学校支援の取り組みも定着し、地域全体で子供たちを守り育てる体制が推進されている。		令和2年度からコミュニティ・スクール協議会（学校運営協議会）が設立され「地域とともにある学校づくり」を推進するための組織づくりができたが、コロナ禍の影響により十分な協議ができていない状況にある。
	【課題】（令和元年度末）		【課題】（令和3年度末）
	令和2年度から学校運営協議会を設置することとしているが、有益に機能させるための今後の取り組みが課題となっている。		コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の活性化を図り、学校が抱える様々な課題に対し、学校、家庭、地域と連携を図りながら、地域全体で子どもたちを守り育てていく必要がある。 また、学びの連続性を考慮し雄武高校にもコミュニティ・スクールの導入と連携が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）推進事業	教育総務係	78	B	継続／内容の見直し・変更	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	開かれた学校づくりの推進については、関係法令の要請もある中、学校に対する地域住民の参画推進を図る上で重要な施策である。
② 有 効 性	B	コミュニティ・スクール協議会の活動や各校下における活発なPTA活動及び学校支援活動推進事業等により、おおむね有効に施策の推進を図っている。
③ 効 率 性	A	開かれた学校づくりの推進のため、地域住民によるボランティアでの活動が実施されており、効率的な施策の推進を図った。
④ 公 平 性	A	本施策において、町民誰もがボランティアによる学校支援に参画することができるとともに、小中学校施設の学校開放利用の地域住民との情報共有も図られることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見 の 反 映	B	開かれた学校づくりの推進については、各学校で実施している学校評価やPTA活動のほかコミュニティ・スクール協議会において地域や保護者の意見が反映させることとしているが、コロナ禍の影響で十分な議論が不足している。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	B
各学校において学校ホームページや町広報等での情報発信が進められている。また、コロナ禍での制限はあるものの地域やPTAとの連携が進んでいる。今後は「地域とともにある学校づくり」に向けてコミュニティ・スクールの役割は重要である。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
学校からの情報発信の充実に努めるとともに、学校・家庭・地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校づくりを推進していくため、地域住民が学校運営に参画する仕組みとしてコミュニティ・スクールの継続と取組を活性化させる必要がある。	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	36
基本施策	11	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	4	魅力ある高校づくりに向けた支援の強化		

1 施策の概要

基本方針	雄武高校については、通学費等や部活動への補助、資格取得受験、見学旅行に係る助成を引き続き実施するとともに、魅力ある学校づくりのための支援を強化し、地域に必要な高等学校としての機能を高めます。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	雄武高校の地域と連携した取組や、小規模校ならではの生徒個々の進路希望に対応したきめ細かい指導のほか、生徒・保護者に対する町の支援の強化により、地元中学からの進学率も向上傾向にある。	雄武高校の地域と連携した取組や、小規模校ならではの生徒個々の進路希望に対応したきめ細かい指導が進められているほか、生徒1人1台タブレット端末の貸与による授業改善の取組や、大学等への進学者に対する町独自の奨学金制度や就職者等への給付金制度などの創設により、魅力ある高校づくりの取組を拡充した。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	地元中学からの進学率については、卒業年によって安定していないことから、雄武高校の更なる魅力ある学校づくりを推進するため、町の支援をはじめ、小中高の連携や地域と一体となった取り組みを強化させる必要がある。	人口減少・少子化の影響により、今後、児童数が減少することが見込まれることから、高校存続対策をより一層推進するため、人口減少・定住対策と連動した事業展開や生徒・保護者に対する経済支援等の継続、小中高の連携や地域と一体となった取組を強化させる必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	雄武中学校から雄武高等学校への進学						
	定義等	雄武中学校から雄武高等学校への進学率						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							65.00%
	実績値	61.50%	83.33%	67.65%	56.25%	61.11%		
指標2	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	16,440	A	継続／現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	雄武高校は、町内唯一の後期中等教育機関であることから存続させる意義が高く、そのためにも入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であることから、引き続き行政の支援が必要である。
② 有 効 性	A	存続対策事業における各種支援対策については、概ね計画どおり進捗しており、入学率の向上に一定の効果があると思慮される。
③ 効 率 性	A	存続対策事業における各種支援対策については、高校と連携して取り組んでおり効率的と判断される。
④ 公 平 性	A	地元の高校を存続させることは、まちづくりや町の活性化にも寄与すると判断されることから、公平性は確保されるものと判断する。
⑤ 町民意見 の 反 映	A	雄武高校において平成30年度から雄武高校輝きプロジェクトを組織し、高校・PTA・行政・教育委員会・町内関係団体により、魅力ある高校づくりを推進する取り組みを進めている。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
各種支援制度により地元中学校からの進学率は一定程度維持されており、生徒の家庭に対する経済的な支援は充実していると判断されるが、今後、少子化による児童数の減少が見込まれることから、高校に進学する学生に選ばれる魅力ある施策を充実させる必要がある。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
雄武高校を存続させることは、子育て支援のみならず町づくり・人づくりの観点からも重要であり、なくすることはできない学校であることから更に魅力ある学校づくりのため、経済支援等の継続や小中高のより一層の連携や地域との協働を推進していく	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	37
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	1	生涯学習活動の推進		

1 施策の概要

基本方針	町民一人ひとりが、それぞれの年代やライフスタイルに応じて、学習活動を楽しみ、個人の生活や仕事だけでなく、まちづくりに生かされるよう、地域課題に対応した学習機会の提供や自主グループの活性化を図るとともに、指導者の育成に努めます。また、各施設・設備の適切な運営管理と改修等を推進します。青少年教育・健全育成については、家庭、学校、地域が役割分担しながら、自然や産業などとの関わり合いを通して、子どもたちが健やかに成長していけるよう、各種取り組みを推進していきます。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	「学び」や「生きがい」につながる学習機会については、各種講座や講演会等を開催し、町民の学習意欲の向上を図っている。	新型コロナウイルス感染症の影響により町主催の「町民大学」「いきがい大学」などの学習講座が延期、縮小、中止など、町民の学習活動の機会が減っている。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	情報技術の進展に伴い、学習意欲の変化とニーズが多様化していることから、引き続き、各種学習機会に町民ニーズを把握し、様々な分野の学習課題の提供方法を工夫し、町民の満足度を上げる必要がある。	生涯を通した学習機会を提供し、グループの自主的な学習活動を支援するとともに、様々な学習活動によって得た知識や成果を地域やまちづくりに生かせるような仕組みを整備する必要がある。また、ウィズコロナを踏まえた新たな変化やニーズ、課題に対する取組が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町主催学習講座の参加率						
	定義等	町民大学等への住民の参加率（まちづくりアンケート）						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							25.0%
	実績値	22.1%	未実施	未実施	未実施	25.2%		
指標2	指標名	青少年健全育成活動の年間実施回数（民間・行政）						
	定義等	青少年の健全育成を目的とした活動回数						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							6回
	実績値	6回	5回	6回	3回	5回		
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	生涯学習推進事業	生涯教育係	0	B	継続／内容の見直し・変更	A
②	武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,068	A	継続／現状維持	A
③	家庭教育推進事業	生涯教育係	203	B	継続／現状維持	A
④	社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続／現状維持	A
⑤	【再掲】町民センター施設整備事業	生涯教育係	1,210	A		A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	町民の「学び」に対する意識や意欲を高めるためには、重要な施策である。
② 有 効 性	B	講座などの参加者にアンケートを実施しており、満足度は高い結果となっている。今後は、さらに多くの町民が参加できるよう学びやすい環境を整える必要がある。
③ 効 率 性	A	社会教育委員や各学校、子ども育成会などの社会教育関係団体・サークルと連携・協働を図り、各役割により効率的な推進が図られた。
④ 公 平 性	A	各世代層に学習機会を提供しており、事業に応じて適切な受益者負担を求めていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見 の 反 映	A	社会教育委員等の意見を聞きながら推進している。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
人口減少、少子高齢化に伴い、参加者が減少している事業があるものの、政策目標の達成には効果的に事業が推進されていると判断される。今後は、参加しやすい環境の整備などに配慮しながら、引き続き事業を推進することが必要である。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
政策目標を達成するためには、施策の継続が重要であり、各関係機関と連携を図り、人口減少やライフスタイルの変化に順応した事業や施設整備を進めるとともに、ウィズコロナを意識した新たな取組や改善を図りながら推進していく。	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	38
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	2	生涯スポーツ活動の推進		

1 施策の概要

基本方針	町民が幅広いスポーツ活動に参加・継続できるよう、初心者にも気軽に参加できるイベントや大会の開催、各種スポーツ教室の充実などに努めるとともに、各種自主グループの積極的な活動展開を促進します。また、各施設・設備の適切な運営管理と改修等を推進します。さらに、子どもたちがトップアスリートにふれる機会づくりに努めるほか、全道・全国大会への参加経費の一部助成、スポーツ合宿との連携などにより競技スポーツの振興を図ります。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	町民が広くスポーツ活動に参加できるよう、スポーツ大会の開催やスポーツ教室等を実施するとともに、スポーツ団体への活動費補助などを行っている。また、全道・全国大会への参加経費の一部助成やスポーツイベントへの参加経費の一部助成を行っている。	少子高齢化や人口減少による競技人口の減少、コロナ禍の影響により各種スポーツ大会、教室及びイベントが縮小、延期、中止となるなどスポーツ活動の機会は減っているが、中高校生においては、全道・全国大会で活躍する選手も増えている。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	少子高齢化により、年々競技者が減少するとともに、指導者も減少していることから、既存の団体活動が継続できるよう支援しつつ、指導者を育成していく必要がある。また、多くの町民が参加でき、長く続けられるスポーツ事業を展開していく必要がある。	各種スポーツ大会、スポーツ教室を効果的に開催し、スポーツを通して、町民の健康維持・増進を図るとともに、年齢や性別に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる環境を整備する必要がある。また、町内の各スポーツ施設については、老朽化が著しく、長期的な視点から長寿命化改修などの整備が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	週1回以上、1年以上継続してスポーツ活動を行う町民の割合						
	定義等	住民のスポーツ活動の参加割合（まちづくりアンケート）						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	15.8%	未実施	未実施	未実施	15.2%		20.0%
指標2	指標名	町主催スポーツ講座の参加率						
	定義等	スポーツ講座の住民参加率（まちづくりアンケート）						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	23.5%	未実施	未実施	未実施	17.6%		25.0%
指標3	指標名	スポーツ少年団員数の割合						
	定義等	スポーツ少年団の加入割合						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	14.7%	11.3%	7.0%	4.8%	6.0%		20.0%
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	社会体育団体活動費助成事業	生涯教育係	540	A	継続／現状維持	A
②	雄武町スポーツ振興事業	生涯教育係	1,292	A	継続／拡充	A
③	生涯スポーツ推進事業	生涯教育係	108	B	継続／現状維持	A
④	【再掲】体育施設整備事業	生涯教育係	792	A	継続／拡充	A
⑤	【再掲】社会体育施設委託業務事業	生涯教育係	9,487	A	継続／現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	町民がスポーツに親しむ機会やスポーツ人口が減少している中、スポーツを行う機会の支援等を図るためには重要な施策である。
② 有 効 性	B	施策事業の実施については、概ね計画どおりに実施できたが、各年代が参加しやすい事業内容の取り組みが必要である。
③ 効 率 性	A	本施策については、スポーツ推進委員をはじめ、体育連盟と連携・協働を図り、それぞれの役割により効率的な推進が図られた。
④ 公 平 性	A	町民全体を対象としていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見 の 反 映	A	スポーツ推進委員等の意見を聞きながら推進している。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
政策目標の達成に効果的であるが、人口減少、少子高齢化に伴い、スポーツ人口の減少が見られる。広く参加しやすい環境の整備など、スポーツ推進による町民の健康増進をすすめることが必要である。	同左	同左

今後の方向性



継続／拡充	継続／拡充	継続／拡充
政策目標を達成するためには、施策の継続が重要であり、各関係機関と連携を図りながら引き続きスポーツの普及推進に努めていく。また、老朽化しているスポーツ施設については、将来的な視点から長寿命化改修、整備などを進めていくことが必要	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	39
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	3	図書サービスの充実		

1 施策の概要

基本方針	読書環境の充実にむけて、図書館・学校図書室のニーズに応じた蔵書・資料の充実に努めるとともに、ブックスタートなど、多様な読書活動を町民とともに進めます。また、誰にでも居場所のある図書館、地域の情報拠点となる図書館、町民の暮らしに役立つ、優しい図書館という3つの基本方針に基づき、新図書館の整備を進めます。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	新図書館の整備とあわせて、図書の増加や郷土資料の収集、人員体制等を整えることにより、図書館機能の充実が図られた。	新図書館オープンから2年半が経過し、蔵書資料の充実が図られ、町民の学びの拠点として徐々に定着してきている。そのほか、郷土資料のデジタル化や学校のニーズに応じて移動図書館を拡充させるなど、読書活動の推進が図られている。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	従前の図書館サービスはもとより、これまで以上に住民が求めるサービスに対応した機能の充実が求められている。	町民の読書活動を促進させるため、各種イベントによる読書意欲の喚起、学校図書室との連携及び支援の充実を図る必要がある。また、感染拡大の状況を見通しながら各種事業を企画立案する必要があり、ウィズコロナを見据えた新たな変化や課題に対する取組が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	図書の町民1人あたり年間貸出し数						
	定義等	町民の図書貸出数						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							10冊
	実績値	7.3冊	7.5冊	6.0冊	6.7冊	7.9冊		
指標2	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	読書促進事業	図書業務係	7,196	A	継続／拡充	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	図書館については、地域の情報拠点、コミュニティの中心としての役割を果たす施設であり、施設等のハード面、資料等のソフト面を整備し充実させることは、市民の生涯学習を推進する上で重要な施策である。
② 有 効 性	B	蔵書・資料の充実・整備が図られたほか、新型コロナウイルス感染症の予防に配慮しながら、企画展示、工作会等のイベント、移動図書館・配本などを実施して読書促進を図ることができたが、図書の市民1人あたり年間貸出し数については、目標を達することが出来なかった。
③ 効 率 性	A	図書の整備については、蔵書構成を考慮し計画的に購入しているほか、図書によっては他市町村図書館と連携して対応するなど、効率的に図書を提供している。また、購入に際しては業者によりカバー・ラベル・バーコードを装備済の状態で購入しており、効率化を図っている。
④ 公 平 性	A	図書館サービスは全市民を対象としていることから、公平性は確保されている。
⑤ 市民意見 の 反 映	A	図書館サービスについては、図書館協議会のほか市民のリクエストに応じる形で実施していることから、市民の意見を反映している。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
企画展示等の図書館イベントを積極的に実施したほか、計画的に資料の整備を行い、市民の読書環境を整え、学習の機会を提供できているが、指標の目標値に達していないことから、さらに施策の推進を図ることが必要である。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
市民の読書活動を促進させるため、リクエスト本や幅広いジャンルからの図書資料の充実を図るとともに、コロナ禍において未実施であった図書館まつりをはじめとした企画イベント拡充や、司書職員の充実による学校図書室への支援、連携の強化を進めていく。	同左	同左

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	40
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	4	芸術・文化の振興		

1 施策の概要

基本方針	町民が優れた芸術・文化にふれる機会を継続的に提供していくとともに、町民の自主的な芸術・文化活動を引き続き支援していきます。また、新図書館の整備と連動しながら、歴史遺産の保存・活用や潜在的な文化資源の展示を進めます。	
現状と課題	【現状】（令和元年度末）	【現状】（令和3年度末）
	町民が芸術・文化にふれる機会を提供するため、毎年芸術鑑賞会、隔年で文化講演会を開催している。また、町民文化祭や各文化団体に対して支援している。	新型コロナウイルス感染症の影響により芸術鑑賞、文化講演会など事業がほとんど実施できていない状況にある。また町民文化祭や各団体の活動も縮小や活動を制限している状況にある。
	【課題】（令和元年度末）	【課題】（令和3年度末）
	各文化団体については、精力的に取り組んでいるが、活動成果を発表する場が少ない現状にあり、機会の提供の支援が必要である。	芸術や文化に触れる機会が減少していることから、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見通しながら、各種事業を企画立案することによる、町民の豊かな創造性や感受性を育み、心豊かな生活の実現を目指す必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町内での芸術・文化鑑賞の機会の年間延回数						
	定義等	芸術・文化鑑賞機会の年間回数						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							5回
	実績値	4回	4回	3回	1回	1回		
指標2	指標名	おうむ陶芸工房年間延利用者数						
	定義等	陶芸工房の利用者数						
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							800人
	実績値	770人	572人	487人	500人	526人		
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	3年度決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	芸術文化公演事業	生涯教育係	1,000	B	継続／現状維持	A
②	陶芸推進事業	生涯教育係	1,039	B	継続／現状維持	A
③	雄武町芸術文化振興事業	生涯教育係	0	B	継続／現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価 【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	町民の芸術・文化に対する意識や理解を深める上で、重要な施策である。
② 有 効 性	A	芸術・文化の鑑賞機会の開催や支援等により、情操の滋養が図られた。
③ 効 率 性	A	事業の実施にあたっては、事前に関係機関等との協議を行った上で、各団体と調整を図りながら事業を実施している。
④ 公 平 性	A	全町民を対象としていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見 の 反 映	A	学校や社会教育委員、町民等の意見を聞きながら実施している。

5 総合評価 【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	A
町民の芸術・文化に対する興味付や関心が 培われ理解を深めることができおり、 また、各文化団体組織の自主的な活動も行 われていることから、継続して推進してい く必要がある。	同左	同左

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	継続／現状維持
生涯学習の観点から、芸術・文化活動は 重要な施策であり、より多くの年代に多様 なプログラムを提供する必要があることか ら、ウィズコロナ、ポストコロナを意識し た取組により引き続き推進していく。	同左	同左